

高等教育における協同学習の実践的検討 (X) —メタ認知的アプローチによるグループでの学習スキル—

益谷 真 (敬和学園大学)

キーワード：協同学習，学習スキル，メタ認知

問題と目的

これ迄の協同学習の教育効果をめぐる実証的研究では、グループ活動が個人の主体性やリーダーシップ、メンバーシップといった社会性の育成に関心を傾けてきた。しかし、少人数のグループで学習活動を効果的に進めるには、個人で学習するのは異なるスキルが必要になると考えられる。学習スキルには知識と理解、そして遂行管理といったメタ認知の働きも必要になるが、そのメタ認知もどのように獲得されているのか明かではない。そこで本報告では、話し合いを通じた学習が本格的になる大学新入生を対象にして、グループで学習を深めるために有効だと認識されていることを抽出し、グループでの学習活動を支える基礎的なメタ認知的な知識とコミュニケーション技法について検討する。

方 法

調査対象者

地方の国立大学で一般教育科目の心理学を履修した計 240 名に対して、授業の課題としてグループでの学習スキルと、それらに関連する個人でも行える学習スキルに関する知識を記述させ、集計結果をフィードバックした。本報告では全体の中から 157 名の新入生を分析対象にした。

調査項目

項目①3～4名のグループで課題を解決するための話し合いは、どうすれば上手くいくか？

項目②3～4名のグループで課題の解決に取り組む時、どうすれば互いに上手く協力できるか？

項目③3～4名のグループで何かのアイデアを練る時、どうすれば互いに知恵が出せるか？

項目④学習した事を活用するには、どうすれば効果的か？

項目⑤何かの理解を深めるには、どうすれば効果的か？

項目⑥自分が知らない事を学ぶ時、どうすれば効果的か？

手続き

各項目で最大 5 つまで知っている事を記述するよう求めた。有効性を斟酌せずに記述数を計数した。但し意味的な重複や意味不明の場合は、計数しなかった。表現が違って同じ意味内容でカテゴリを作成した。

結果と考察

項目毎に主なカテゴリと計数をメタ認知の観点から方略、課題の性質、認知特性の 3 つに分類した。紙面の都合でグループ活動について示す。

項目①では、学習よりも行事や学級などでの話し合いの経験がうかがえた。協同学習で重要な方略である「参加責任」、課題の「公平性」、認知特性の「質問と説明」に関する認識が乏しかった。

Table 1 項目①「話し合い」の回答内容と計数

方略	司会等の役割を決める (78) 他者の意見を否定しない (39) リーダーを決める (21)
課題	目標を明確にして共有する (17) 具体的ににする (10)
認知	全員が意見を積極的に言う (34) 発言し易い雰囲気を作る (19)

項目②では、互恵性を生むために、協力しないと出来ない課題の設定や、メンバー全員が何らかの貢献ができる目標を設定する認識がなかった。意見を上手に伝えるコミュニケーションスキルの重要性についても言及されなかった。

Table 2 項目②「協力」の回答内容と計数

方略	各自が役割を果たす (32) リーダーを決める (26)
課題	分割・分担する (28) 目標を明確にする (17) 進捗状況を確認する (12)
認知	積極的に発言する (22) 人の話をよく聴く (14) 批判しない (11)

項目③では、創発性を生むための方略として、イメージを視覚的に共有できる道具の利用や、課題の特性として、質より量を優先させるといった技法に関する認識が乏しかった。

Table 3 項目③「知恵」の回答内容と計数

方略	出たアイデアに意見を加える (15) 予め一人で考えてくる (11)
課題	思いついた事は何でも言う (42) 関連情報を収集する (14)
認知	出たアイデアを比較・逆転・転換する (12) 出たアイデアから連想・発展させる (10)